第 91 回運用委員会議事要旨

1. 日 時：平成 27 年 3 月 10 日（火）10:00～12:00
2. 場 所：年金積立金管理運用独立行政法人 大会議室
3. 参加者：・米澤委員長 ・堀江委員長代理 ・大野委員 ・佐藤委員
・清水委員 ・菅家委員

4. 議事要旨

- (1) 「次期中期目標（案）、次期中期計画（案）」について
質疑等の概要は以下のとおりである。

委 員 今回の中期計画案を読んでいると、いろいろなところで運用委員会の役割について記載されており、それらは議決が求められる事項、審議を経る事項、それからモニタリングという意味で報告いただくものといったように分類できると思う。運用委員の責任と権限をはっきりさせるためにも、何が議決で何が審議なのか等についてまとめていただきたい。

事務局 昨年 8 月に事前承認を導入した際の対象は、中期計画と業務方法書の作成及び変更である。その他、審議を経るもの、報告等の区分けについてはこれまで以上に明確にご説明させていただくようにしたい。

次回の運用委員会で一覧表のようなものをお出ししたいと思う。

委 員 基本的な枠組みの確認だが、独立行政法人であれば国の補助金でもって運用するというのが一般的だと思うが、GPIF の場合は国からの補助金は一切なく、運用収入で全ての経費を賄う構造になっているところが他の独立行政法人と異なるところだと思う。

経費については第 2 期と比較すると運用委託手数料が膨らんでいると思うが、これから 5 年間、アクティブにしてもパッシブにしても、あるいはオルタナティブにしても重要な運用方針については運用委員会で議論して決めるということが前提だと思う。予算上の数字はあくまでも予算であって、それ以上でも以下でもない。手数料はできるだけ低くするのは当然だと思うし、アクティブ運用についても確たる収益の見通しが持てるということを確認しながらやっていくのだということを確認したい。

事務局 アクティブ・パッシブ比率やオルタナティブ投資については運用委員会で御議論いただくテーマであり、なかなか 5 年先までは見通せないところがあるが、予算はあくまでも、実行することとなった場合の予算的な裏付けを確保するものであり、実際には運用委員会で御審議いただきながら進めていく。また、アクティブ運用等を進めていく場合には、しっかりとした収益を確保できることを確認しながら行っていく。

委員 人件費は、今後高度で専門的な人材を採用するということだが、そういう専門家、プロは当然必要だと思う。ただ、中期計画案に記載されている報酬体系を成果連動型とするとか、国民にわかりやすい説明をするといったことは遵守しなければならない。さらに、運用委員会へも説明をお願いしたい。

事務局 報酬体系については、ホームページ等でつまびらかにしている。また、専門的な人材の採用を進めていくにあたっては、その状況について運用委員会の場合でも御報告してまいりたい。

委員 管理運用手数料が予算化されているというのは、独法の枠組みの中では仕方ないのかもしれないが、パフォーマンスとの見合いで決まるものであり、とても違和感がある。

事務局 今の独法の仕組みの中では仕方がない。ただ、この予算は実績連動型の委託をしてすばらしい実績を上げたときに払えないということにならないように、ゆとりをもって考えている。

事務局 我々は手数料を相当抑えているし、実際はこの予算より総経費あるいは手数料の割合は下がる可能性がある。

(2)「業務方法書の変更(案)」について
質疑等はなかった。

(3)「トランジション・マネジャーの選定」について
質疑等の概要は以下のとおりである。

委員 以前の運用委員会での報告では各資産クラスごとに1社を選定するということだったと思うが、2社選定している資産クラスがあるので、その理由を教えてください。手続き的な問題はないのか。

事務局 当初は1社選定するつもりだったが、トランジションのアプローチが異なり、過去の実績も同水準にあることから、敢えて2社選定し、競わせてみようということにした。

委員 選定の不透明感を国民にもたれないように細心の注意を払わなければいけない。

事務局 今回は、両方を選んで活用してみるという考え方をとった。説明責任についても最大限配慮した上で決めさせていただいた。

(4)「平成26年度第3四半期運用状況」について
質疑等はなかった。

(5)「リスク管理状況等の報告(平成26年12月、平成27年1月)」について
質疑等はなかった。

以上